

子どもの貧困による体験格差の解消に向けて ～子ども食堂運営者への調査を通して～

Toward Reducing Disparities in Experiences Due to Child Poverty ~Through surveys of children's cafeteria operators~

グループ名：Wish

学生氏名：今井日奈子¹⁾，金井健¹⁾，亀田萌葉¹⁾，瀧澤優奈¹⁾，柳澤葵¹⁾

指導教員 洪心璐¹⁾，研究協力者 奥野玉紀²⁾

- 1) 法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 洪心璐（眞保智子）ゼミ
- 2) 一般社団法人子ども食堂カフェ北野 運営責任者

子どもの貧困がもたらす体験格差は、将来の人生の広がりに影響する長期的な問題である。本研究では、八王子市の子ども食堂が提供する食事支援や体験学習の取り組み、利用者の状況、活用する社会資源、および支援現場での課題を明らかにし、体験格差の解消に向けた提案を行った。

キーワード：子どもの貧困，体験格差，子ども食堂

1. 研究の背景

子どもの貧困がもたらす体験格差は、将来の人生の広がりに影響を与える長期的な問題である。しかし、現状では食事や学習の格差に比べて後回しにされる傾向にある。文部科学省（2008）は、体験活動により「問題発見や問題解決能力の育成」や「現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上」が期待できると示している。一方、今井（2024）は、年収 300 万円未満の低所得家庭の子どもの約 3 人に 1 人が過去 1 年間で学校外の「体験」を持たない状況にあると指摘し、すべての子どもに「体験」の機会を提供する「社会」が求められると述べている（今井,2024）。また、土井（2023）は、子ども食堂が当初の貧困家庭支援の枠を超え、多様な階層や高齢者との交流の場へと変容しつつあると述べ、体験格差解消のために子ども食堂の役割が重要であると示唆している（土井,2023）。このことから体験格差の現状把握や体験格差への支援に繋げるために子ども食堂の存在が重要だということがわかる。

これまで八王子市が行ってきた子どもの生活実態調査では、児童・生徒や保護者を対象に、子どもの体験状況を含む生活の実態が明らかにされたが、支援者側が体験格差をどのように捉えているのか

についての調査は十分でなく、さらなる検討が必要である。

2. 研究の目的

本研究では、八王子市における子ども食堂が提供する食事支援や体験学習に関わる取り組み、利用者の状況、活用する社会資源、支援現場での課題を明らかにし、新たな支援のあり方を提案することで、子どもたちの体験格差解消に貢献することを目的とする。

3. 研究方法

本研究では、子ども食堂カフェ北野の運営責任者に対して半構造化面接調査を実施した（調査時間：90分）。また、質的研究の補完として支援スタッフ5名に対し自由記述式アンケートを実施した。半構造化面接調査の分析では、調査協力者の同意を得た上で録音を行い、音声データを逐語記録として整理し、定性的コーディングを行った。また、アンケート調査で得られた回答について、テキスト分析を行った。

4. 倫理的配慮

本研究は、法政大学「人を対象とする研究倫理規程」に従い、対象者には調査の目的、方法、個人情報保護について書面で説明し、同意を得て実施

した。

5. 調査結果

インタビュー調査から、子ども食堂カフェ北野の活動内容には、朝食や長期休暇中の昼食の提供、弁当や惣菜の配布、料理教室などの体験イベントが含まれていることが明らかになった。2023年の利用者は計18400名にのぼり、朝ごはん利用者の内訳は小学生が7割、中学生が2割、高校生や大学生、未就学児、大人が残り1割であった。また外国籍の子どもが多いことが特徴であり、貧困層に限定しない開かれた雰囲気作りが工夫されている。

研究結果から、子ども食堂カフェ北野は、パン屋やボランティア、市の助成金など、八王子市内の多様な社会資源と連携していることが明らかになった。以下の表に、活動中に活用されている社会資源をまとめる。

物的資源	地元のパン屋や惣菜工場からの食材提供、シリアル等企业からの寄付食品
財源	企業からの寄付金、市の補助金、募金
人的資源	ボランティア、趣味・強みを生かして活動する地域の「タレント」、教員
拠点	知り合いの不動産屋から無償で借りた物件
ネットワーク	八王子子ども食堂ネットワーク

さらに、アンケート調査では、スタッフの8割が体験格差解消活動の必要性を感じており、その理由として「成功体験による将来の選択肢拡大」「心身の成長への影響」が挙げられ、「多世代交流」「外国籍の子どもや片親家庭のサポート」も必要とされている。

6. 総括

八王子市には2024年3月時点で40か所以上の子ども食堂が存在し、地域内で多様な活動が展開されている。今後、学校や企業、地域住民と連携し、食事と居場所提供に加え、体験機会の提供を通して体験格差を解消する一体的な支援が求められる。また、外国人の子どもに対しては、日本文化に触れ

る機会を提供することで体験格差の解消が期待される。さらに、子ども食堂や空き家などの社会資源と学生団体をつなぐマッチングアプリのような仕組みを提案し、より多様な支援が行えるようにしていくことを目指していきたい。

7. 参考文献

- ・今井悠介（2024）『体験格差』, 講談社現代新書
- ・ケログ（2023）「ケログの社会貢献活動”Better Days”の実践」, (<https://www.kelloggs.com/ja-jp/who-we-are/better-days-commitment.html>, 2024年10月26日閲覧)
- ・公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン（2023）「子どもの「体験格差」実態調査 最終報告書」 (https://cfc.or.jp/wp-content/uploads/2023/07/cfc_taiken_report2307.pdf, 2024年10月24日閲覧)
- ・子ども食堂カフェ北野公式サイト (<https://www.cafekitano.com/>, 2024年6月13日閲覧)
- ・土井隆義（2023）「若年層の格差をめぐる連鎖の構図」 季刊個人金融, 18(1), 2-11
- ・八王子市, 「子どもの生活実態調査」について, 八王子市ホームページ, (<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kosodate/011/0005/p032439.html>, 2024年6月20日閲覧)
- ・八王子市社会福祉協議会（2023）「はちおうじ未来応援団パンフレット」
- ・フードバンク八王子（2024）「2023年度フードバンク八王子活動報告」, (<https://kifubook.com/wp/wp-content/uploads/2024/10/fb8-2023-report.pdf>, 2024年10月24日閲覧)
- ・文部科学省（2008）「体験活動事例集—体験のススメ」. 文部科学省, (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/04121502/055/003.htm, 2024年10月17日閲覧)
- ・文部科学省（2021）「令和2年度青少年の体験活動に関する調査研究結果報告～21世紀出生児縦断調査を活用した体験活動の効果等分析結果について～」, (https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00738.html, 2024年10月24日閲覧)